

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2014

12月

No.114



特集 P2・3

第2次地域福祉推進計画

つながりふくしプラン
2011年→2015年

自分の暮らす地域の 福祉に理解と関心を



ひ孫と
いっしょ

シリーズ113

一宮町 西安積

山本 かねさん(91歳)

○陽矢くん(4歳)

橋本 陽平さん・裕子さん

■長男



自分の暮らす地域の 福祉に理解と関心を



自分のまちの福祉活動をどのように進めていくのか、活発な意見交換が行われます
(10/29 千種地域福祉推進委員会)

第2次地域福祉推進計画

つながりふくしプラン
2011年→2015年

「**自分の地域に目を向け
みんなの幸せを考える**」

岡栗市の地域福祉を推進していくためには、市民一人ひとりの福祉に対する理解と意識を高めていくことが大切です。

本会では、子どもから大人まで、すべての人が地域の中で自らの果たす役割について、自覚と意欲をもつことができるように、福祉の学習環境を充実させるとともに、福祉情報の発信や啓発活動に努めてきました。

福祉学習とは、福祉の知識や技術の習得、体験に終始するものでなく、自分たちの地域に

「岡栗市社協第2次地域福祉推進計画」(以下、つながりふくしプラン)の第4年次である平成26年度も8か月が過ぎました。今月号では、「だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を推進している岡栗市社協(以下、本会)が、地域福祉への理解や関心を高めるために、住民といっしょに進めていく「福祉学習」について考えます。

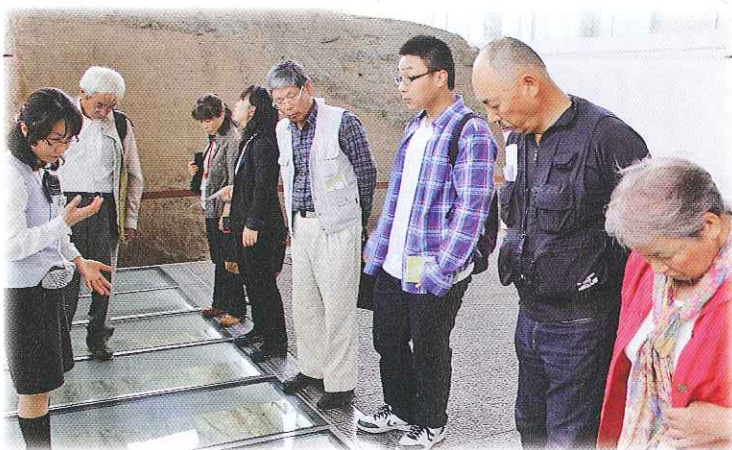
目を向け、地域を知り、そこに住む人を知ることから始まりま

す。そして、地域の問題を他人ごとでなく自分の問題として捉え『**誰もが住みやすいまち**』について住民同士で考えていくことです。

私たちの地域にはさまざまな人が暮らしています。そのことに気づき、お互いを理解し、支えあい、私たちが共に同じ地域で暮らしていく仲間として、みんなの幸せについて考えていくことが最終的な目的です。



福祉委員研修会を4支部で開催し、見守り活動についていっしょに考えました(7/4 一宮保健福祉センター)



災害ボランティア養成講座2日目の視察研修では、大震災の体験から命の大切さや教訓を学びました(10/9 北茨震災記念公園)

福祉への理解や関心を 高める取り組みを

つながりふくしプランでは、「地域や学校での福祉学習の強化」を活動項目にあげており、学校での体験学習をはじめ、自治会での住民学習会など、福祉への理解や関心を高める取り組みを進めています。

今年度実施した福祉委員研修会や災害ボランティア養成講座では、見守りが必要な方や被災



体験学習は、障がいについて考える機会に(4/22 県立山の学校)

された方に対して自分に何ができるのかを考える機会となり、各支部に設置の地域福祉推進委員会では、自分の地域の問題や課題について話し合う中で福祉への関心が高まっています。

手話や点字、配食サービスなどのボランティア活動は、ひとり暮らし高齢者や障がい者など当事者の方との関わりの中で福祉への理解が深まる、とても大切な取り組みと言えます。

また、みなさんの自治会で開催のふれあい喫茶やサロン活動は、福祉委員や民生委員など福祉関係者が活動に参加することで、さまざまな気づき(住民の困りごとなど)や地域の情報共有を図る機会となっています。

「ふ・く・し」を 考えるための学習

このように、福祉への理解や関心を高める取り組みを進めています。今後市民のみなさんといっしょに福祉学習を進めていくために「宍粟市版福祉学習プログラム」なども必要となつてきます。

みなさんの地域で行われる懇談会や福祉連絡会、自治会役員会など、住民同士の話し合いの場に本会の職員を呼んでいただき、自分の暮らし、地域についていっしょに考える機会を作りましょう。

内容やテーマについては、本会からも提案(見守り、認知症、障がい...)させていただきますので、まずは各支部窓口ま



福祉連絡会で原自治会の現状について意見交換。住民からの声を大切にしています(8/2 原公民館)

でお気軽に相談ください。
福祉学習は、「みんなのふ(ふだんの)く(くらしの)し(しあわせ)」を考えるための学習です。宍粟市に住むすべての人が、自分の暮らし地域の福祉に関心を持ち、理解を深めていけるまちをめざして...

(千種支部 波多野好則)

やさき

結成5周年で集い!

宍粟市男性介護者の会

11月16日(日)、宍粟市男性介護者の会が結成5周年を記念し『介護する人への支援を考える集い』を開催し、86人が参加されました。

記念講演では、三田市男性介護者の会「ぼちぼち野郎」の皆さんから、「若年性アルツハイマーの妻と共に」と題して、笑顔で介護することの大切さなど、お話しいただきました。

また、宍粟市の会員からは男性ならではの介護や家事の大変さや苦しさなど、切実な介護体験を発表され涙を流される参加者もありました。

その後、行われたグループ交流では、介護者を支援するボランティアの必要性や介護の状態を隠さず SOS が言える関係の大切さなど、参加者全員で共有しました。

同会代表の中野剛志さ



若年性アルツハイマーの妻を介護されている「ぼちぼち野郎」代表の竹中孝夫さん(中央)も交流会に参加され有意義な時間となりました(宍粟防災センター)

んは、「来年4月の介護保険制度の改正では、地域に求められる役割も大きくなると思う。今日の意見を参考にみなさんと一緒に考えていきたい」と、熱い想いを語っておられます。

5周年を迎えた同会の活動が、これからも続いていくよう応援していきます。

(山崎支部 森井裕矢)

いのちのみや

「いいね!」をたくさん発見

嶋田ふれあい喫茶『見学会』

「何もかもが新しい発見! こういうやり方もいいね」

11月13日(木)、

嶋田自治会にご協力をいただき、ふれあい喫茶の見学会を開催しました。

「ふれあい喫茶をより良くしたい、

他の自治会の取組みを見てみたい」との思いで嵯峨山・

中安積・伊和・能倉・河原田自治会から

の参加がありました。

嶋田ふれあい喫茶は、代表福祉委員を中心に、10人のスタッフとの連携で毎月第2木曜日に行われています。

住民の誰もが参加しやすいように、一人ひとりへの声かけや家の近くまで迎えに行くなど、ちょっとした気配りを大切にされています。

見学会では、お茶を飲みながら嶋田の運営スタッフと意見交換を行い、「カラオケや体操は介護予防になっ



「椅子か座布団か選べる会場内の配置は、参加者への気配りだね」(嶋田公民館)

ね」「おそろいの緑のエプロンは一体感があっていいね」との声が聞かれました。

「できることから取り入れてみようかな」と能倉の畑尾京子さん。

本会では、今後も自治会福祉活動の「いいね!」を発見し、交流を広めていけるような機会を作っていきます。

関係者のみなさん、一緒に知恵を出しあいながら、住民同士の顔が見えるふれあい喫茶をつくっていきましょう。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

は
が

何でも相談できるつどいに

※第6ブロックのつどい

11月27日（木）、第6ブロックのつどいが行われ、29人が鹿伏公民館に集いました。

第6ブロックのつどいは2カ月に一回、波賀町北部地域の限界集落化していく地域でおこなう出前型の介護予防事業で、参加者をお迎えするためマイクロバスが地域を巡回します。

「冬場に備えた健康教室」と題して、看護師さんから肺炎球菌とインフルエンザについての話を聞きました。また、予防対策や適切な予防接種などの説明も受け、参加者の中には健康相談をされる姿も見受けられました。



「血圧測定の時にも簡単なアドバイスを皆さん熱心に聞かれます」と看護師さん(鹿伏公民館)

号」を運行する予定です。「せつかくしてもらって、行かなあかん」などと参加者の中からは、今から楽しみとの声も聞かれました。

この介護予防事業には、毎回民生委員さんが積極的に同席されるなど、様々な立場や職種の方が関わっています。今後とも地域内の身近な相談窓口となりながら、参加者や地域の声を取り入れた、「第6ブロックのつどい」を進めていきます。

(波賀支部 平有利菜)

※第6ブロックのつどい…6つの自治会(日ノ原、音水、引原、鹿伏、戸倉、道谷)の高齢者を対象にした出前型の介護予防事業。

ち
くさ

鷹巣自治会ここにあり！

鷹巣ふるさとの集い

11月23日（日）、旧千種東小学校体育館（鷹巣）で自治会主催の『ふるさとの集い』が開催され、地元住民をはじめ約150人が参加しました。

東小学校が閉校して4年、これまで学校の行事であった集いが地域の交流の場として今も続いています。

会場に入ると、書道や手芸品、農産物などの展示や喫茶コーナーが設けられており、参加者がゆっくり楽しめる工夫がなされていました。

当日は、集いを盛り上げようと大阪や東京から帰って来られた方もあり、ピアノ弾き語りやマジックショー、昭和40年代の鷹巣のスライドなど盛りだくさんの内容でした。

「今日は、一日ゆっくり楽しんでもらえた。」



『ふ♥ゆかいな仲間たち』による劇「紋三郎稲荷」の上演もありました(旧千種東小学校体育館)

これからも、鷹巣自治会ここにありの心意気を示していきたい」と自治会長の村上一郎さん。『ふるさとの集い』での盛り上がりを見れば、鷹巣のみなさんが持つエネルギーの力強さを感じました。

(千種支部 小原志のぶ)

笑いヨガで気分すっきり! 波賀ボランティアのつどい



11月22日(土) メイプル福祉センター

波賀ボランティアのつどいを今年も開催し、ボランティアや一般住民合わせて29人が参加しました。

講師としてたつの市の神尾洋一さんをお招きし、健康体操である「笑いヨガ」を体験しました。

その後、災害時に役立つスリッパ等を新聞で作ったり、お茶を飲みながらゆっくりと交流を深めました。参加者から「よく笑い体も軽くなった。広めていけたらと思う」「多くの方と話ができて楽しかった」と意見がありました。

これからもボランティア同士の交流の場としてつどいを続けていきたいと思います。

(波賀支部 坂本幸子)

ボランティア センター日誌

「いっしょに
くすね
イーター」

活動の幅を広げる きっかけに



鷺尾施設長から説明を受けました(はりま自立の家)

11月22日(土) はりま自立の家 しろう自立の家

千種ボランティア連絡会で役員研修を行い、16人が参加しました。

今回の研修会では、宍粟市内にある『はりま』と『しろう』の自立の家を見学しました。またしろう自立の家ではオープンデーにも参加し、職員や利用者の方と交流ができました。

参加者からは「障がいのある方の暮らしは大変と思っていたけど、色々なことに積極的に取り組まれているとわかりとても勉強になりました」など感想を聞くことができました。

この研修が、今後の活動の幅を広げるきっかけになればいいですね。(千種支部 小原志のぶ)

地域で輝くきっかけに! セカンドライフ応援セミナーがスタート



それ「ロン」

11月11日(火) 一宮保健福祉センター

シニア世代を対象に全6回講座「セカンドライフ応援セミナー」がスタートしました。

第2回目となるこの日は、地域のふれあい喫茶や交流の場で使えるコミュニケーション麻雀教室を体験しました。このコミュニケーション麻雀は、東日本大震災の仮設住宅などで住民同士の交流や介護予防の脳トレゲームとして活用されています。

講師の松尾やよい先生の指導のもと、みなさんコミュニケーション麻雀の楽しさに引き込まれます。「老人会で使わせてもらおう」と早速貸出を申し込まれる方もありました。

セミナーでは、シニア世代の方々がこれまで以上に地域で輝いて生きていけるようないろいろなプログラムを用意しています。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

みんなが笑顔になる子育て教室

コモンセンスペアレンティング パパ・ママ向け講座

終了



コモンセンス
ペアレンティング
修了証

9月2日から始めた全7回のコモンセンスペアレンティング講座がこのほど終了しました。

11月11日の最終日には、講師の眞定加奈子先生より修了証が交付されました。

この講座で子どもとのコミュニケーションのとり方や効果的な誉め方、自分自身をコントロールする方法などを学びました。

この講座で学んだことを生かして楽しい子育てをしてください。(山崎支部 横山洋子)

～受講生のアンケートより～

- ・周りに友達もなく母としても何の知識もないままに子育てをしています。子どもはどんどん成長して手におえなくなりイライラもつづいてきていましたが、今後もこの講座を思い出して子育てに役立てたいと思います。
- ・内容も良く、ためになりました。先生や参加しているお母さん方の体験や相談なども聞けて参考になりました。
- ・同年代の子どもを持つお母さん方と悩みを共有でき、今、困っている項目が講座内容だったので興味深く話を聞けました。